

埼玉県トラック協会について（マニフェスト）

副会長 瀬山 豪

☆はじめに

新型コロナウイルス感染、国民全員が終息を願って努力していますが、未だ収束しそうもありません。埼玉県トラック協会は、本年度同様に来年度も各事業の中止を含め、会議体の回数減、さらにはリモートでの会議等、コロナ禍に対応していかなければなりません。しかしながらコロナ禍後を踏まえ変化すべきところは変化していく必要があります。

☆埼玉県トラック協会の現状

我々の団体は、定款にある「適正な運営と公正な競争による事業の発展をもって公共の福祉に寄与し、社会的地位の向上と会員相互の協調を図る」という目的に沿って緩やかに組織や事業を変革してきました。

しかしながら潤沢な補助金による安定は、組織の形骸化や予算の固定化を生み、変化への対応が遅れたりもします。

例えば「SDGs」、これは時代の潮流です。我々のような団体こそ「持続可能な開発目標」を掲げ、周知していく責務があります。

また、2018年から政府の「規制改革推進会議」によって白タクの解禁が検討され、現在は営業用トラック・バスの規制改革も検討されています。これに距離を置きながら「全日本トラック協会」が仕掛けた「貨物自動車運送事業法の一部改正」により「標準的な運賃の提示」がされました。我々はそんな認識をもって「全日本トラック協会」と協調できているでしょうか。

皆さんは、協会の運営で「こんなことにお金使っちゃっていいの？」と疑問を感じたことはありませんか。同様に各委員会の事業計画（案）が提示されたときに、多少の疑問を感じても（事務局が一所懸命考えたのだからと）敢えて意見をしないようにしていませんか。それも潤沢な補助金を主な原資とする団体の特徴で、問題を表面化し議論することにハードルがあるのです。

本年度、正副会長会議で「会員へのマスクの配布事業」が決定し、素晴らしい事業となりました。そもそも埼玉県トラック協会は、運送業界と会員のためにあるべきなのです。

☆課題及び政策とその対応

1. 協会事業（委員会含む）と「SDGs」との意識的連携と周知が必要です。
2. 貨物自動車運送事業法の一部改正に伴う「標準的な運賃の届け出」の推進に率先して協力する必要があります。

3. 予算及び運営に偏りを生み易い委員会構成の検討が必要です。総務委員会を総務と事務局に、交通環境対策委員会を交通対策と環境対策に、更には常設委員会と特別委員会を明確に区分し、スムーズに活動できるようにする必要があります。まずは意識的变化からと考えています。

4. 前記 3.によって会議体に沿って協議が分別されれば、極端に連続した同議案での会議がなくなります。法令や会則による連続会議はともかく、正副会長会議と総務委員会と理事会を同日開催し、同じ議案で協議する必要はないと考えています。

5. 会員の多くが30台未満の事業者であり、後継の育成に苦慮し、協会の対応を願っています。次世代向けのマネージメントスクールや東ト協の後継者研修のような教育方式を確立するか、流通経済大学等との連携による教育環境整備が必要です。

6. 職員の増員を伴って、青年部会の運営はもとより、支部・ブロック協議会に対する協会事務局の実務的支援も今まで以上に必要だと考えています。

後述 7.8.9.については一連の課題です。現在北部従業員センターは売却済み、西部従業員センターは川越トラック協同組合が利用、東部従業員センターは埼玉東トラック協同組合が管理し、フォークリフト研修や各支部及び会員会社の各種事業に利用されています。利用頻度や利便性から考えると東部従業員センターの拡大拡充が必要です。

「東南部物流防災（教育）センター」として大規模な施設を建設し、その減価償却費を公益目的支出計画の費用に充てることを埼玉県に承諾いただき執行するという計画は如何ですか。難しい事業ですが「仮称：建設執行会議」を開設し、表向きに検討する必要があります。そしてこの施設が倉庫機能等を持つことで収益構造が確立できれば、一般社団法人としての安定運営（資金利用が制限されない）の一助にもなります。同様に現在の教育センターにも収益構造の検討が必要です。

7. 公益目的支出計画に適合した会計方式と出捐金の対応は必須です。

8. 大規模な震災時に対応できる仮称「物流防災（教育）センター」の建設執行会議の設立が必要です。※他県には緊急輸送会議等の会議体があります。

9. 脱炭素によって予測される補助金の大幅減額には、公益目的支出計画資金の活用による収益構造の確立が必要です。

☆結びに

何てことを考えているのと思われる方や、そんなこと出来る訳がないという方も多くいらっしゃると思います。しかし、先輩たちが遺してくれた「我々のための協会」を次世代に繋ぐためには、ここに記載したような「運営や事業のあり方と方向性」を考え始める必要があると思っています。